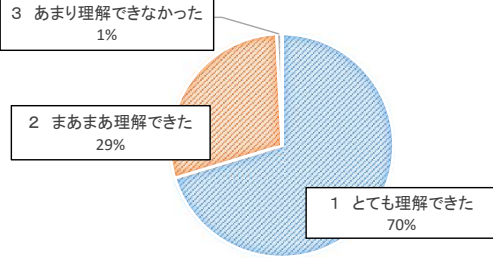
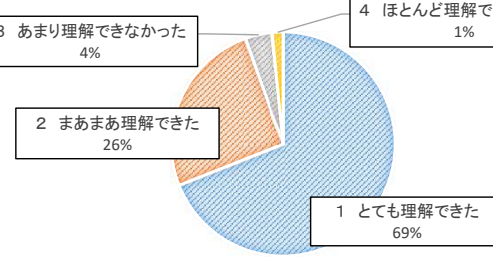
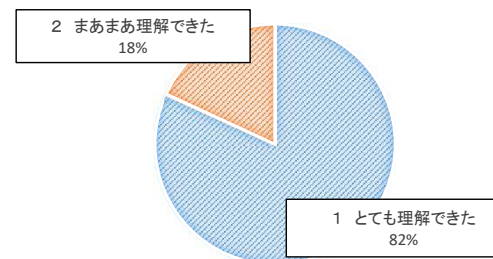
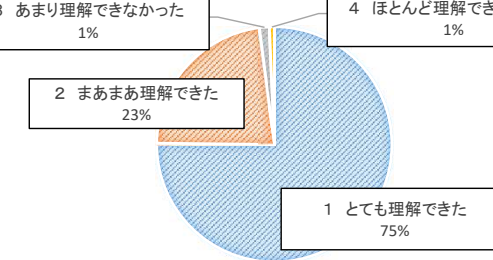
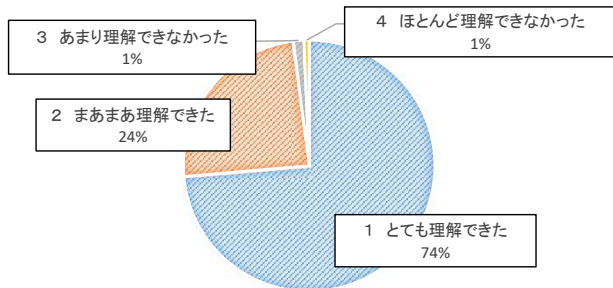


令和6年度 地域学校協働活動コーディネーター養成講座(兼)理解促進研修【第1回】 振り返りアンケート集計

Q:事前学習用動画の内容の理解はできましたか？ 1:とても理解できた 2:まあまあ理解できた 3:あまり理解できなかった 4:ほとんど理解できなかった	理由等 (一部抜粋)										
<p>【動画①】「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」</p>  <table border="1"> <tr><th>理解度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1 とても理解できた</td><td>70%</td></tr> <tr><td>2 まあまあ理解できた</td><td>29%</td></tr> <tr><td>3 あまり理解できなかった</td><td>1%</td></tr> <tr><td>4 ほとんど理解できなかった</td><td>0%</td></tr> </table>	理解度	割合	1 とても理解できた	70%	2 まあまあ理解できた	29%	3 あまり理解できなかった	1%	4 ほとんど理解できなかった	0%	<ul style="list-style-type: none"> ●子供たちを取り巻く環境の変化が激しく、課題も多様化する中で、学校と保護者と地域が同じ方向で協働していく必要性を感じた。 ●当事者意識をもって、多様な他者と関わりながら、ゆるやかなネットワークでつなぐ大切さを学んだ。 ●地域と学校と一緒に子供を育てる目標を共有し、お互いに何でも言い合える関係性を継続的にやっていくことが大切なんだと思った。 ●昨年度受講後に、所属校のサポーターさんと実践発表のためにCSと地域学校協働活動について学ぶ機会があった。そのこともあり、今回のお話に納得する部分が増えた。 ●活動調整会議でモヤモヤしていることが少し分かったような気がした。教育目標の共有はしているが、ビジョンの共有がされていないのかもしれない、と勉強になった。 ●活動を行っている中で、あやふやになっていた所を再度見直し、気付くことができた。 ●事前に視聴することで、今日の講座の内容を理解することにつながった。
理解度	割合										
1 とても理解できた	70%										
2 まあまあ理解できた	29%										
3 あまり理解できなかった	1%										
4 ほとんど理解できなかった	0%										
<p>【動画②】児童生徒の発達の支援について</p>  <table border="1"> <tr><th>理解度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1 とても理解できた</td><td>69%</td></tr> <tr><td>2 まあまあ理解できた</td><td>26%</td></tr> <tr><td>3 あまり理解できなかった</td><td>4%</td></tr> <tr><td>4 ほとんど理解できなかった</td><td>1%</td></tr> </table>	理解度	割合	1 とても理解できた	69%	2 まあまあ理解できた	26%	3 あまり理解できなかった	4%	4 ほとんど理解できなかった	1%	<ul style="list-style-type: none"> ●子供の特性が多様化していること、個々に合わせて個性を伸ばす教育が行われていることが分かった。 ●個々に合わせていくための背景の把握や対応など、難しさと責任の大きさを感じた。 ●個別最適な学びの実現のために、重要なのが選択肢と自己決定だという主張はわかった。なぜそうなるのか、そして具体的にどのように実践されるのかが気になった。 ●地域の方にも、子供たちにどんな困り感があるのかを知ってもらい、どのように対応するのかを考えてもらう必要性を感じた。 ●子供の成長は個々に違いがあり、子供の発達についても今回のお話の中で知ることができた。 ●分かりやすかった。初めて聞くことばかりなので、全て理解できたかどうかは分からない。 ●実際の演習の準備段階の動画として捉えることができた。
理解度	割合										
1 とても理解できた	69%										
2 まあまあ理解できた	26%										
3 あまり理解できなかった	4%										
4 ほとんど理解できなかった	1%										
Q:講義・演習の内容の理解はできましたか？ 1:とても理解できた 2:まあまあ理解できた 3:あまり理解できなかった 4:ほとんど理解できなかった	理由等 (一部抜粋)										
<p>【講義】地域学校協働活動コーディネーターに求められる役割と意義</p>  <table border="1"> <tr><th>理解度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1 とても理解できた</td><td>82%</td></tr> <tr><td>2 まあまあ理解できた</td><td>18%</td></tr> <tr><td>3 あまり理解できなかった</td><td>0%</td></tr> <tr><td>4 ほとんど理解できなかった</td><td>0%</td></tr> </table>	理解度	割合	1 とても理解できた	82%	2 まあまあ理解できた	18%	3 あまり理解できなかった	0%	4 ほとんど理解できなかった	0%	<ul style="list-style-type: none"> ●学校教育と地域社会のお互いが信頼し合ってより良いものを求めていくために、試行錯誤していく必要性が理解できた。 ●方向性が見えてきた気がして、課題と解決のために何ができるかを子供、教職員、地域住民、保護者で熟議してみたい。 ●具体事例を数多く示していただき、話の内容がよく理解できた。とりわけ、「協働」の言葉の場面で、「仲良くない人とも一緒にやるのだから、目標やビジョンを共有する場が大事なのだ」という説明で、すっきり納得できた。 ●コーディネーターとは、学校と地域、地域同士をつなぎ「協働」を創り出していく重要な役割がある。 ●どちらかが背負って負担を増やすのではなく、地域と学校が協働する、子供を対象に全てWin-Winな関係を目指す取組のために、つなぎ役となるという旨が理解できた。 ●自分一人で何かすると考えず、みんなで考えてやっていくことや共通理解が大切である。 ●地域と学校と一緒に取り組むイメージが少しずつ持つようになってきた。
理解度	割合										
1 とても理解できた	82%										
2 まあまあ理解できた	18%										
3 あまり理解できなかった	0%										
4 ほとんど理解できなかった	0%										
<p>【演習】子供が抱える課題の理解</p>  <table border="1"> <tr><th>理解度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>1 とても理解できた</td><td>75%</td></tr> <tr><td>2 まあまあ理解できた</td><td>23%</td></tr> <tr><td>3 あまり理解できなかった</td><td>1%</td></tr> <tr><td>4 ほとんど理解できなかった</td><td>1%</td></tr> </table>	理解度	割合	1 とても理解できた	75%	2 まあまあ理解できた	23%	3 あまり理解できなかった	1%	4 ほとんど理解できなかった	1%	<ul style="list-style-type: none"> ●変化の激しい社会の中、生きていく子供たちの課題は多様化し、常に変化していくものだと思う。その時々で大人が見守っていくことが大切だ。 ●全ての人が子供の気持ちに寛大なのかといえば、そうではないため、板挟みになることもある。子供の気持ちを理解できるように、子供の目線に立って行動したいと思う。 ●子供たちの課題について、保護者や学校に加え、地域の大人たちが進んで解決に向けて取組を行えるように、情報の共有が大切だと思った。 ●「あなただったら」という捉え方や発想がなかなか思いつきそうで思いつかない。課題を解決するための会の持ち方が参考になった。 ●自分の子育てをとうに過ぎ、地域にも子供生徒が少なく、現状が把握しきれていない、又、時間も少なすぎ消化不良だった。 ●グループワークで話し合いをしたことでより課題が明確になった。小学校・中学校・高校の先生方とお話ができて、大変役立った。 ●地域内で行う熟議の方法が理解できた。当事者意識をいかに持ってもらうかが大切だと分かった。 ●子供の課題について、他の方の考えが聞けて新たな視点を持つことができた。
理解度	割合										
1 とても理解できた	75%										
2 まあまあ理解できた	23%										
3 あまり理解できなかった	1%										
4 ほとんど理解できなかった	1%										

【熟識演習】児童生徒の発達の支援について



- 多様な子供たちには、一人一人違った対応が必要であることが理解できた。子供たちに「寄り添った」関わり方が大切だと思った。
- 地域学校協働活動でも、「子供真ん中」の視点が一番大切だと考えている。そういった意味でも、今回様々な特性を持つ子供への対応方法について学べたことは大変意義があった。
- 地域の方にもいろんな子供がいることを知ってもらい、どのように対応をすればよいかを理解してもらうことは大切である。
- 行動や言動に現れている生徒だけでなく、教室の中に多くの支援を必要とする生徒がいる。その生徒一人一人に対してどうアプローチをすべきか、学ぶことが多かった。
- 児童の実態を理解したうえで対応するということを地域とともに確認できると、個に合った対応ができると思う。
- 様々な立場の方と配慮や支援の仕方を熟議することができ、とても参考になった。立場の違う人との熟議の仕方についても理解することができた。
- 学校と地域で目的を共有することの大切さを再確認した。熟議を重ねていくことで、地域が強くなっていくのだと思う。

Q: 研修会で学んだこと【自由記述】（一部抜粋）

- 子供の課題、現状や今の学校の取組について、正しい情報をアップデートしていく必要があると感じた。昔の感覚で判断していることが多いと思う。発達に特性のある子供の関わり方も知識がないと誤った対応をしてしまうことに気付くことができた。
- 「誰しもできないことがあって当然で、だからこそみんなの力で乗り越えていく」ということ、学校と保護者と地域がしっかりと課題を共有し、協働することで子供たちの未来をつくっていく意識を持つ。
- 地域・社会との良質なつながりや信頼できる多様な大人の豊かな関わりが、これからの社会を生き抜いていく子供たちの資産になる。コーディネーターとして頑張っていきたいと思う。
- 学校・家庭・地域が育てたい子供像を共有し、それぞれの立場で何ができるかを対話を通して実践・行動していく必要性を再度認識できた。
- CSについて何度受講しても、新しい学びがある。今後も、コーディネーターとして円滑に結びつきができるようにしっかり学んでいきたい。
- 支援から協働へ転換するためには、教職員と地域住民とが十分教育目標やビジョンを共有し、それぞれが当事者意識をもって熟議をしていくことが重要であることを再認識した。本市においても子供を取り巻く周りの大人が横のつながりを強化していく必要がある。今後の取組の参考にしたい。
- 職業や立場に関わらず、多くの人が子供のことを考える、話し合える場が必要だと改めて感じた。違う組織の方と話をしたことで、違う視点を持つことができた。また、こういう研修の裾野が広がれば、より学校への理解が深まったり、応援者が増えたりするのではないかと考えた。
- 子供は地域の宝。学校任せにするのではなく、地域ぐるみで育てることによって、将来、地域の担い手になる力をつけること。それが学校もよくて地域もよいことである。
- 志々田先生のお話の中にあった「居場所の数と自己認識の関係」のお話が、特に印象的だった。学校と協働して、地域の子供たちに少しでも、「居心地がいい」と思える場を提供したり、「価値ある他人」と思ってもらえる関わりができたりに、これからも自分の経験や特性を生かして、学校運営協議会に参画していきたい。
- 子供を認めて、ほめることが大切。地域と学校がほめるポイントを協議して共有し、みんなでほめることで子供の成長が強化される。

Q: その他【自由記述】（一部抜粋）

- 昨年も参加しましたが、今年にはさらに学ぶことが多くあった。内容に具体性があり、実践的であったように思う。
- 地域の方と研修を受けさせていただき、大変刺激を受けた。
- 第1回に参加できず、次の第2回に参加して下さる地域の方と、今日の研修について情報共有したい。
- 大人の勝手な考え(決めつけ)により、目的や方策がぶれがちである。学校との距離がより近くなる研修だった。
- 個々にしろ、コミュニティにしろ、関係づくりの大切さと難しさを感じた。